

平成 25 年度 学内教育 G P プログラム 事業経費計画書 (萌芽型)

事業名称	人間発達科学専攻研究発表支援事業
取組代表者名 担当者名	米田 俊彦 大森正博、小谷眞男、杉野勇、坂本佳鶴恵 岩壁茂、伊藤亜矢子、上原泉、大森美香 刑部育子、浜口順子、富士原紀絵、浜野隆
事業内容	<p>大学院学生の研究支援のモデルを構築し、そのノウハウを蓄積したうえで文部科学省「卓越した研究者養成拠点事業」に出願することをねらいとして、本事業を実施する。文科省の同事業は、実質的にグローバル COE の後継事業と位置づけられており、2011 年度まで 5 年間にわたってグローバル COE プログラムを実行してきた人間発達科学専攻を拠点として申請する予定である。</p> <p>人間発達科学専攻におけるグローバル COE 事業では、大学院生に対する支援として R A 雇用・公募による研究費補助（協働研究補助を含む）・研究発表支援の 3 つの事業を展開した。本取組代表者は、COE 事業において教育プログラム委員長としてこれらの院生支援事業を担当した。今回の学内 G P プログラム事業の予算が 1 件 100 万円以内に設定されていることから、本事業では研究発表支援を行うが、COE 事業における上記の院生支援のノウハウを生かすことを考えている。</p> <p>事業の具体的な内容は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補助の対象は人間発達科学専攻博士後期課程在籍者（ただし 2010 年度以後の入学者に限る）とする。 2. 補助は、学会に発表するために要する往復の旅費および宿泊費（1 泊分）とする。 3. 補助の金額は、海外における発表は 1 件 15 万円以内（最大 3 件）、国内における発表は 1 件 5 万円以内とする。1 人の申請は 1 件に限る。 4. 海外における発表に対する補助が 2 件以内となった場合は、補助対象者に対して、さらに英文校閲の費用を補助する（1 人について 5 万円以内）。 5. 補助対象者は、それまでの研究業績と予定している発表内容についての審査によって選考する。選考にあたっては、ポスター発表よりも口頭発表を優先する。 6. 4 月に募集を行い、選考は 2 回行う（8 月までに開催される学会での発表については 4 月の募集の直後、9 月以降に開催される学会での発表については 8 月中に選考を行う）。 7. 業績や発表内容の審査には社会学・教育学・心理学について、それぞれ 3 人の教員があたる（自分の指導学生の審査に当たらないように審査員を配置する）。補助対象者の決定は、取組代表者と領域代表の審議による。 8. 補助金を交付されて 8 月までに開催された学会で発表した院生は 9 月に、10 月以降に開催された学会で発表した院生は 2 月に、学内で開催する報告会において発表の内容とその成果やその後の研究の進展などについて報告する。この報告会には、指導教員が出席してコメントを行う。また、博士後期課程の院生に広く出席を呼びかける。 <p>院生が遠隔地で開催される学会に発表するための費用を補助するという本事業は、院生の研究の進展に対して直接的に寄与する面が大きい。また、経済面だけでなく、この補助の獲得のために、院生は発表の準備を早めることになり、また発表の前に評価を受けることから、発表の内容が充実したものになる</p>

ことが大いに期待される。

発表の成果（発表そのものと、大会の会場で得られた反響、さらには発表後の研究のさらなる進展）を学内で発表することは、後輩の院生に対して、発表の方法上の工夫なども含めて、大いに刺激を与えらるゝと考ゑられる。